

# 九州デザインシャレット 2019 in 長崎市



○高尾忠志、池田隆太郎、柴田久  
田中尚人、星野裕司、石橋知也、増山晃太  
風景デザイン研究会 info@fukei-design.jp



将来まちづくりや建設分野に携わる様々な分野の学生・若手技術者を対象に、実際のまちづくりの課題に取り組む機会を提供し、専門家指導の下、異分野との共同作業を体験させ、現代の要請に適った人材を育成する。この体験を通じてその後も切磋琢磨しあえる仲間と出会い、その人的ネットワークが九州、全国に広がっていくこともこれからの九州、日本の美しい風景を守り、新たな文化価値を生むための大きな力となるはずである。

## 【特徴①】地域に密着した課題設定

### 《まちへ深く誘う公共空間をデザインする》

近年、にぎわいづくりや居場所づくり、健康増進、地域防災力の向上等、様々な観点から、これまでの概念や制度の枠を超えて、道路、河川、公園、広場等の公共空間を積極的に活用し、心地よい時間と多様な交流を生み出すことで、都市や地域の価値を高める取り組みが増えている。長崎市は地域住民との連携により、長崎市最初の外国人居住地「唐人屋敷」地区の歴史文化を顕在化させる事業を進めており、その一環として土神堂前広場や夜間景観向上にかかわる整備が予定されている。本設計演習では、こうした背景を受けて、多くの観光客が訪れる新地中華街から唐人屋敷跡に人の流れを誘うための「土神堂前広場」のあり方を検討し、模型等を製作して具体的なデザイン計画を提案することを課題とした。



## 【特徴②】実践的で多彩な講師陣



## 【特徴③】短期集中 / グループワーク / 合宿形式のプログラム

## コンセプト～プランニング～デザイン～プレゼンの基礎を体系的に習得



## 最終講評会

◇評価の視点  
都市における広場のあり方  
長崎のまちにおける対象広場の役割がよく考察されていて、それに合わせた空間デザインや運営イメージが提案されているか  
提案の新規性、独創性  
公共空間の現状を打破するような新しい、チャレンジ的な提案がされているか

◇各班成果 凡例  
コンセプト  
読み解き  
方針  
デザイン  
模型写真  
その他  
成果物一例

地域に対して新しい知見を与えた

プレゼンテーションの質  
時間内に分かりやすく、自分たちの提案を伝えることができたか。計画図や模型がわかりやすくつくられているか  
デザインの地域性、魅力  
長崎のまちにふさわしい魅力的なデザインが提案されているか

初心者でもここまでできた

広域調査結果  
イメージベース

### A班『経路』

長崎の急峻な地形に対し、唐人屋敷の骨格は格子状に与えられた。急坂、狭い路地、不自然な段差。それらの細かな空間を、住民は自分のものとして使いこなしてきた。人々の様々な生活が積層する、高密度で、小さなスケールの、ディープな空間。

路地の延長に加え、中心の大きな既存樹、既存建築物の柱や屋根、現況地形を保持し既存の空間的特徴を継承した、住民にとって親しみやすい心地よい奥の空間へ。一方、都市計画道路の整備に合わせたアンジュレーションのデザインにより、人々を奥へ自然と深く誘う空間へ。

路地を延長し引込んだ内側には曲線を用いず、地域に見られた植木、レンガ等の細かなディテールに取り入れる。既存樹の周りには座ることもできる回遊デッキを取り、既存の柱は住民がテントを張るなど、住民自身が自由に使い込める素地とする。路地の外側は、ベンチと植樹により奥に引き込まれる導線をデザインした。路地空間の広がりや、空家改修等への援用により、持続可能な地域性の継承を期待する。

■五三裕太 (東京大学大学院社会工学専攻環境デザイン研究室) ■堀越義人 (法政大学大学院都市環境デザイン工学専攻環境デザイン研究室) ■谷本大樹 (熊本大学大学院地域国土計画研究室) ■嶋島佑太 (東京理科大学大学院建築学専攻伊藤香織 都市計画・都市デザイン研究室) ■濱田美知 (関西大学大学院システム理工学部環境デザイン研究室) ■村田美奈 (国際工業株式会社インフラマネジメント事業部)

### B班『広場を心臓に 人の流れを』

江戸時代の唐人屋敷は唐人たちの物流拠点として機能し、現在の新地中華街に存在した蔵との間で物資や人々の往来が活発に行われていたことが考えられる。現地調査では、唐人屋敷跡の住民が地区内の多数の箇所から出入りすることが観察され、唐人屋敷に来ることの少ない観光客との行動範囲に差異がみられた。

上述した往来の活性化を目的に、対象地を住民や観光客の活動拠点として位置付け、①昔の広場の機能を踏襲し人々の活動が活発に行われる。②住民が日常空間として利用できる。③観光客が唐人文化を知る拠点とする。

土神堂前広場の歴史を説明するサインにより観光客に唐人文化を伝えるための場、住民によるイベントや子供たちの遊び等の活動が行われる場、水際の人々が心地よく滞在できる佇みのある場として、道路から奥にかけて段階的にゾーン分けした。さらにルーバーの設置や一段下げた地盤等により、広場の奥に佇む利用者と広場外に「見る・見られる」の関係が生まれ、それぞれの空間に見合った利用を促すような設計がけられた。

■石見佳苗 (熊本大学大学院土木建築学専攻環境デザイン研究室) ■藤尾隆 (西日本工業大学デザイン学部建築学専攻伊藤香織研究室) ■新野夏樹 (熊本大学大学院環境工学専攻環境デザイン研究室) ■八木優希 (愛媛大学大学院都市環境デザイン研究室) ■児玉創 (東京大学大学院社会工学専攻環境デザイン研究室) ■安達幸輝 (日本コンサルタンツ株式会社中支社技術部地域環境計画室)

### C班『まちの「踊り場」 或いは「踊る場』

広場の使い手は誰か？という論点の基、本エリアは歴史が色濃く残り、今も住民の生活と密接な関係にあると位置づけ、日常利用の熟者が「住民が使いこなす」ために必要だと考えた。広場＝「踊り場」と置き換え、生活・アクティビティ・歴史・交通の結節点を目指す。

日常における広場のアクティビティを対象地に閉じないことが重要だと考え、隣接する通りを含めた計画とした。敷地を広く考えることで顕在化された5つの点を「キワ」と呼び、デザインの手がかりとした。キワを再編することで広場の中心を通り関係づけ、広場を「踊る場」として通りと合わせた流れ方を検討。

長崎特有の地形に対して生れたキワは緑との関係が豊かであった。前述する緑との関係を踏襲し、5つのキワを緑とセットで計画した。加えて各キワは異なる性格となるように計画、緑・連壁、緑・レンガなど緑とハードを併せて考えることで広場に多様な居場所をつくる。各キワが広場方向を望み、緑・ハード・アクティビティのまとまりを本エリアの風景と重ねた。

■川藤知恵 (九州大学環境デザイン研究室) ■TANG WEN SHI (長崎大学ランドスケープ・アーキテクチャー・デザイン研究室) ■矢野寛也 (徳島大学工学部社会基盤デザイン研究室) ■渡邊拓巳 (早稲田大学大学院建設工学専攻環境・デザイン研究室) ■重吉将臣 (福岡大学大学院環境まちづくり研究室) ■吉崎雄太 (熊本大学くまもと水環境・防災研究教育センター特別研究員)

### D班『広場を照らす「陽」、広場に灯る「灯』

中国と日本の文化が溶けあった歴史、文化を感じさせる空間であり、取り壊される予定の市場はかつて非常に賑わっており生活の中心であった。またランタンフェスティバルではお祭りが行われており、新地中華街と合わせてメイン会場の1つとなっており。一方、住民はお祭りの存在や歴史をもっと知って欲しいと考えている。

派手な新地中華街と対比させた落ち着いた雰囲気を感じさせるデザインへ。人の営みが主役となるように、広場を再び生活の中心として復活させる。昼には人の営みによる「陽」、夜は建物からこぼれる明りの「灯」へ。

魚市場のある建物を飲食店等として再活用し、窓と出入口の設置により人の営みと屋内の明りが広場から見られるようにする。広場北側には土神堂周辺と同じレンガ調の塀を設け、大門から入った時に土神堂の一部が見えるように高さと位置を調整。これにより広場と土神堂の一体感を創出する。広場には夏と冬の影を考慮して人が座って休める段差を設置、さらに水路側には柳を植え、水の音を感じるサウンドスケープを作る。

■柿浦公福 (福岡大学大学院環境まちづくり研究室) ■高見昂佑 (徳島大学理工学部社会基盤デザインコース) ■宮内倫明 (東京大学大学院都市計画コース) ■山田史朗 (長崎大学大学院環境デザイン工学専攻環境デザイン研究室) ■渡邊幸彦 (京都大学大学院社会工学専攻環境デザイン設計学専攻環境デザイン研究室) ■堀川直隆 (中央復建コンサルタンツ株式会社道路系部門)

### E班『はみ出す市 (段差を生かして多様なアクティビティを受け止める)』

1) 活気は異なるものも昔も市場である。地元住民から、新しく広場ができることに無関心である意見が把握された一方、市場が賑わっていた昔は良かったと懐かしんでいる声も挙げられた。2) 唐人屋敷の歴史を感じさせる空間が4つの堂、唐人屋敷全体を囲んでいる。3) 観光客よりも、通商・堂などの生活動線として通過。

飲食がきっかけとなり人々を集め、小規模の居場所をたくさん作ることで人が溜まることを目指す。また市場だけの空間から、小規模空間ができ、日常の様々なアクティビティが、広場へとにみ出すことも想定する。

市が広場へどんどんはみ出していくイメージ。道路に近い場所は滞在時間の短い、ひと休みや買い物メインの広場。奥に行くにつれて滞在時間の長いティーンズ広場となり、どんどん奥へと誘う。行き着く先に空堀の発見。露天商やパザールなど、市がはみ出していくことによって、日々のアクティビティはどんどん増える。人が集まりだすと活気も生まれ、そこにまた新しい高が生まれるといった波及効果へ。

■伊島美咲 (九州大学工学部地球環境工学) ■常泉佑太 (東京理科大学大学院建築学専攻伊藤香織 都市計画・都市デザイン研究室) ■松本友実 (高知工科大学大学院システム工学専攻環境デザイン研究室) ■山口昌祐 (西精光コンサルタンツ株式会社) ■金野拓郎 (株式会社オリエタルコンサルタンツ東支社都市政策・デザイン部)

## 受講生の声

計 29 名の受講生から 大変貴重なコメントをいただきました！

徳島大学 高見昂佑  
「広場を作っていくのに必要なことを、解説があったすくあとに、実践を通じて体にかき込めたのがよかった。また先生方のコメントがかなり専門的で、様々な視点から議論がなされており、自分とは違う班の内容でも大変聞いていて興味を持っていました。他にも普通に生活していれば交わることのできる他大学の学生の方と交流することができたのもいい刺激でした。」

九州大学 川藤知恵  
「デザインシャレットでは、普段関わることのない他大学の学生や社会人の方と、出会ってわずか四日間で1つのものを完成させるという経験ができ、その難しさや面白さを学ぶことができました。シャレットの経験を活かして、今後もっと大学の枠を超えたイベントに参加してみたいと思いました。また、様々な人との出会いとコミュニケーションをしたいと思います。」

熊本大学大学院 石見佳苗  
「短期間で広場のコンセプトメイキングからデザイン設計まで一連の流れを学べたことがよかったです。またチームでWSを行うための導入として、参加者の専門性問わず誰でも広場のデザインを考えることができるような解りやすい内容で、非常に参考になりました。」

関西大学大学院 濱田美知  
「模型作りはほぼ初めてでしたが、講師陣やサポーターさん、チームメイトの皆さんがサポートしてくださり、初めながらも皆さんの学習する機会と挑戦を経験することができました。また限られた時間での作業は、自ら発言し、行動に移す動力になったかと思えます。」

東京理科大学大学院 常泉佑太  
「グループワークで、普段接することがないような他分野の学生や社会人の方と一緒に議論・制作ができたことで、視野が広がりました。また、景観デザイン、建築、ランドスケープ、照明など様々な分野の先生方から一度にご講評いただける機会はないので非常に勉強になりました。」

国際工業 村田美奈  
「良し・悪しを判断するだけでなく、そこから代替案を提案できなかったことが、今回の反省であり、一番悔しかった部分です。今回のワーキングの中で、自分の得意・不得意を知れたこと、不得意との向き合い方を学んだことは、大きな収穫だったと感じています。」

大日本コンサルタント 安達幸輝  
「グループワークは、分野も年齢も住んでいる地域も違う初対面の六人が集まるためとても刺激的で、他の受講生の頑張る姿を見て自分はまだ頑張りが足りないなと励みになりました。もちろんグループ内だけでなく、他のグループの受講生や、OBOGの方々、講師の先生方と知り合えたことも大きな財産となりました。」

中央復建コンサルタンツ 堀川直隆  
「照明デザインの講義後、実際に夜の街で照明の良し悪しについて議論ができたことはとても勉強になりました。またグループワークでは実際に手を動かして、デザイン案として考えたことを班員に納得してもらえようように伝える難しさ、ゆるぎない強いこだわりと柔軟さのバランスのとり方などを失敗しながらも学ぶことができました。」